経営政策科学　試験対策プリント　〜まとめ〜　　ピアスの人

軽いまとめです。

勉強を一から始める場合や、おさらいをする時に使ってください。

シケプリを作ろうとしたらレジュメとほとんど同じものができてしまったのでこのような形にしたのです。

そのためできるだけ簡潔にまとめました。授業内容はレジュメがメインだし、勉強はレジュメを中心にすることをおすすめします。

あと、日本とアメリカの企業について表をつくって解説するつもりですが、うまくパソコンが使いこなせないのでそれはのちほど完成させます。

第一回

この授業では「日本型企業システム」を題材にして、その分析をおこない、企業一般の制度、仕組み、現象を考えるものです。との説明がありました。

第二回

企業とは何でしょう。ヒト、モノ、カネは必要条件ですよね。でもこれは材料にすぎない。これだけじゃたりない。それらを動かすための制度や仕組みが必要です。こうした制度や仕組みを「企業システム」といいます。

ここでは企業システムをステイクホルダー、つまり企業の利害関係者によってわけ、それぞれについて考えます。すなわち(a)従業員(b)銀行(c)株主(d)仕入れ先／販売先(e)競争相手(f)政府です。第三回から第十回にかけてはこのそれぞれについて詳しく分析を行います。レジュメを見ればわかりますが、日本型企業の特徴＝年功序列、終身雇用、etc…と思いうかぶと思いますが、それが本当にあっているのか？ということに疑問を持ちましょう。

第三回、第四回

ここでは(a)従業員、つまり雇用システムについて分析します。主に考えるべきことは、雇用／解雇、賃金決定、昇進についてです。日本の企業について考えてみますが、わかりやすくするためにここではアメリカの企業と比較をします。結論からいうと、日本の企業もアメリカの企業も年功序列的に賃金があがるし、長期的に雇用される層もあるし、たいしてかわりません。ただし、アメリカのブルーカラーは少し特徴があります。昇格と昇進の違い、ファストトラックの有無、賃金の決定方法などは重要でしょう。

第五回

(b)銀行、つまり金融システムについてです。企業と銀行は融資関係、経営監視関係、経営救済関係にありますが、ここではメインバンクを主に扱い、企業と銀行の関係はどのようになっているのかを分析します。経営救済については、銀行がわの利益にかなうとされた場合のみ救済が行われるようです。メインバンクの機能については勉強しておきましょう。メインバンクが日本独自のものかという問題ですが、「長期的関係を構築することにより融資を行うというリレーショナル・バンキング型の融資形態はどの国においても見られる」とのことで、その例外としてアメリカの大企業があるようです。

第六回、第七回

ここでは(c)株主についてです。実際に会社を運営するのは経営者ですが出資者（株主）は株主総会などで経営に関与することができます。（１）株主の意向をどのように経営に反映させるか、（２）株主がどの程度影響力行使し、逆に経営者はこの影響力をどのように抑えるか。これをガバナンスシステムといいます。第六回ではその基本として企業集団について学び、第七回でガバナンスシステムについて分析しています。第七回ではまず株主について分析したあと、日本型、アメリカ型にわけてガバナンスについて分析しています。表の作り方がわかったら表をつくりますが、簡潔な表にしますので、レジュメを参照しながら見てください。

第八回

(d)仕入れ先／販売先、つまりサプライヤーシステムについてです。

企業と仕入れ先／販売先の関係、つまり、どれくらいの仕事を企業が負担するのか、どのような関係を両者間で構築するか、納入／供給方法をどのようにするか。このような問題解決方法として「系列」がとられました。系列の定義、実態などについて分析がなされてます。ここでは自動車メーカーを例にとり、さらにアメリカと対比しています。そして系列にはどのような利点があるのかなども分析しています。